

日本のこころ⑦「武士道」新渡戸稲造

1 ウォーミングアップ①

- ①立身出世の人物
- ②哀愁ただよう歌人
- ③自暴自棄
- ④卑怯な振舞い
- ⑤年長者をたてる
- ⑥シルバーガイド
- ⑦武士の情け
- ⑧言わなくてもわかる
- ⑨売国奴の代名詞
- ⑩白眼視される
- ⑪損得勘定で動かない
- ⑫男のロマン
- ⑬胡散臭い
- ⑭侵略のお先棒を担ぐ
- ⑮反骨のジャーナリスト
- ⑯意気投合する
- ⑰計画は白紙に戻された
- ⑱裏も表も知り尽くす
- ⑲八畳の和室
- ⑳商工会議所

2ウォーミングアップ②

- ①我々は柔道の稽古が終わった後、正座をして黙想する。
- ②共通性のないバラバラな連立政権
- ③だれだって自分がかわいい。
- ④彼は「武士道」に対して距離を置く
- ⑤「武士道と云ふは死ぬ事と見つけたり」
- ⑥マイナスと超マイナスではマイナスを選ぶ。
- ⑦国王さえ周辺国の顔色をうかがわねばならなかった。
- ⑧臨場感あふれるガイドの説明
- ⑨負け組の「恨み節」ととられるのは潔くない。
- ⑩人々は「魂の純粹さ」に武士道を見て、彼に同情を寄せた
- ⑪彼の置かれた状況は他人ごとではない。
- ⑫我々は「賊軍」の汚名を着せられた。
- ⑬「筆は劍より強い」というよりむしろ「筆が劍」だ。
- ⑭言いたいことをそのままいうのははしたない。
- ⑮彼は中国語を学んで日本海と東シナ海を股にかけ活躍した。
- ⑯彼は最後まで口を割らず、処刑された。

⑰彼に義理立てする。

⑱彼は「浪花節」タイプの「不器用な男」だった。

⑲「武士道」は武士の専売特許ではない。

⑳武士道の株が急落した。

3 翻訳

①切腹するのは『私は、魂の宿るところを開いて、あなたにその様子を見せよう。それが汚れているか、清いかは、あなた自身で判断せよ』ということである。

②彼はオフレコで軍部を批判したが、軍部ににらまれると舌の根も乾かぬうちにそれを訂正して「失言」を陳謝した。

③「長いものには巻かれろ」という現実主義者からは風車に立ち向かうドン・キホーテ的存在として揶揄されがちだが、彼らの生きざまこそ日本の武士道に近いものがあるようだ。

④中国や韓国で親切のかたまりのような人に会う機会は、日本に比べるとはるかに多い。しかしそれは自分が「身内」と認められたときであって、実は「部外者」に対しては冷たいことも少なくない。ウチとソトをはっきりと分ける傾向も日本より強いのだ。

⑤彼が「武士道」の中で戊辰戦争のことについて触れなかったのは、口にできないほどの辛い人生を負ってきた同郷の人々のズーズー弁による叫びを、格調高い英語では語りきれないことを知っていたからかもしれない。

4 通訳

①彼は同じ東北の仲間たちのことを書きたいと思ったはずだが、あえて書かなかった。その心情を無視することはできない。

②生きているときには敵味方にわかれて殺し合わねばならないのが運命だったとはいえ、死ねば区別なく、ともに極楽浄土に往生できる。

③忠誠心の証明のために仇討ちをした赤穂浪士を野放しにすることはできなかったため、GHQは「忠臣蔵」の上演を禁じた。

④敗戦により時代の空気がいっぺんに変わってしまったため、彼はふるさとに居場所を失ってしまった。

⑤新渡戸は国際人として脚光を浴び、日本を「祖国」と再認識して「武士道」を書いた「表の人間」である。一方の山田は東亜に注目した時点で「裏の人間」といえる。

5 スピーチテーマ

①A 藩校 B 入れ墨 C 武士道

②A 孔子廟 B 廃藩置県 C 道の駅

③A 位牌 B 大正デモクラシー C 古民家